

吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒564-0062大阪府吹田市垂水町3丁目8-28, 705 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6338-1107 中村小夜子
会長/小田忠文 年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 振込先/00980-3=28845
ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7Esskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日 編集長/古谷啓伸

今後の予定

春の七草観察会	2月15日(日)	
	3月6日(土) 7頁
	4月3日(土)	
あルック吹田散策 旧吹田村コース	3月6日(土) 11頁
大阪自然史フェスティバルにブース出展	3月20日(土) 14頁
	~21日(日)	
琵琶湖博物館 バスツアー	3月27日(土) 12頁
あルック吹田散策 南千里コース	4月3日(土) 11頁
あルック吹田散策 片山・豊津コース	5月22日(土) 11頁
会報誌33号の原稿締切り 投書・投稿歓迎	3月20日(土)	
会報誌33号の宅配	5月6日頃	

第5回総会

5月15日(土)

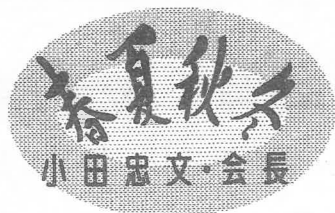
市民会館大集会室で 13時から

正会員の方で欠席される場合は委任状の提出をお願いします。

委任状と討議資料はつぎの会報誌をお届けするときに同封します。

理事会

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。理事でない方もお気軽にご参加ください。日時の変更の場合がありますのでお問い合わせください。



昨年の市報12
月1日号と15日
号で『開発指導
要綱の条例化』

と『吹田市第3次総合計画基本構想（素案）』についての意見を求める記事があいついで出ている。いずれも吹田のまちづくりの基本となる案件である▲私たちは「開発」＝「みどりの喪失」と受け取って久しい。特に万国博覧会（1970年）以後の吹田市の変貌は著しかった。田んぼ、里山、ホタル、キツネそしてメダカ、スイタクワイが絶滅寸前の状態だ。今や

人間の活動を抑えてでも彼らが生息できる環境を創造する時代、世紀ではないだろうか。そうすることはヒートアイランド現象の抑制など地球温暖化の防止にも寄与することになる。そしてそれこそが「持続可能なまちづくり」なのだ▲上記二つの案件では発想の転換が必要だ。今後の吹田市では「開発」＝「みどりが増える」となる開発指導条例であり、吹田市総合計画であってほしい。これは今年の筆者の初夢だが、いずれの日にか正夢となってほしいものである。

本誌名を「すいた」と読み換えます

前号で本誌名の読みを現行の「ふきた」でつづけるか「すいた」と読み換えるか、ご意見を募りました。役員以外の9人からご意見が寄せられ、理事会で検討して、「すいた」と読み換えることになりました。本号から「郷」の「さと」も含めてルビを削除することにしました。

ご意見を大別するとつぎのとおりでした。

- | | |
|-------------------------|----|
| どちらかという、「ふきた」のままでよい | 0人 |
| どちらかという、「すいた」と読み換える方がよい | 4人 |
| どらでもよい。一任 | 3人 |
| 自由意見 | 2人 |

理事の立候補および推薦を受け付けます

任期 2004年度通常総会（5月15日予定）より2005年度通常総会まで
職務 理事会を構成し、定款の定め及び理事会の決議に基づき、業務を執行する
理事会（原則として毎月第3土曜日午後）に出席する

推薦の場合は事前に本人の承諾を得てください。

立候補及び推薦する人は氏名、住所、電話番号を明記の上、
郵送または電子メール、ファックスで事務局までお願いします。

受付期間 2004年2月末日

問い合わせ先 事務局 中村 TEL 090-8375-0647

千里山西 静かな住宅街 大正末期のニュータウン

まちなみ委員 松岡要三

・千里山西住宅街の歴史

明治43年(1910年)の箕面有馬電気軌道(現阪急電鉄)の開通を契機に、また第1次大戦終結後の好景気を反映して、池田、箕面、豊中など大阪郊外で住宅開発が急激に進んだ。当時豊津から千里山までは佐井寺の西の端で起伏に富んだ丘陵の竹林、雑木林や佐井寺の西の端で、また梅・桃・桜の名所で全く民家がなかった。

大阪商工会議所会頭の山岡順太郎が、会社などに勤める中産階級のために、社会事業としての住宅経営が急務であるとして、林知事、池上大阪市長を発起人として有志を募り、E・ハーワードの田園都市を意識した大阪住宅経営株式会社を大正9年に設立して千里山住宅地の開発に着手しました。

千里山住宅開発は、当時としては壮大で、郊外生活の理想郷を実現しようと、英国の田園都市レッチワースをモデルに、駅近くに噴水を設け、それを中心に放射状の道路を設け、それを格子状に細分する円心状の道路を設けたまちなみが形成されました。住宅開発に併せて、大正10年10月千里山駅が開通。大阪市内の船場の商店や会社に勤める中産階級に的を絞って、和洋折衷のモダンな400戸の家が建てられました。

テニスコートや社交場としての会館、整備された下水道・街路樹があり、郊外住宅の理想郷、新しき文化村といわれていました。

大阪住宅経営は当初の目的が達成されたとして、昭和3年に解散し、事業は新京阪鉄道に引継がれ、その後阪急電鉄に吸収されました。

・千里山西住宅街の今

今も誰もが住んでみたい、住み続けたい素敵なまちです。和洋折衷の戦前からの建物、おしゃれな新しい家々。現在風致地区に指定され、住宅街としての景観



千里山第一噴水

が保たれています。住民の愛着が大きな役割を果たしています。景観のポイントとして下記がかみ合せて、家なみを形づくっています。

- ・おしゃれな邸宅
- ・生け垣・敷き際の植栽
- ・庭の樹木
- ・日々の清掃活動
- ・坂のある風景
- ・大型車両を通さない小径
- ・風致地区での建築規制(絶対高さ:15m以下 建ぺい率:40%以下)

まちには次のようなシンボルがあり、まちに変化と潤いを与え、まちの魅力を高めています。

・千里山第1噴水(ロータリ):ベンチ、花壇、千里山開発記念碑があり、市民の憩いの場で毎年クリスマスコンサートが開催されます。

・千里山神社:千里山の最高地に、大正15年建立。
・千里寺:昭和4年千里山仏教会館としてスタート。現在の本堂は昭和28年に関西大学より移築された建物ですが、昭和天皇大嘗祭の時、御所に饗宴場として建てられた由緒ある建物です。

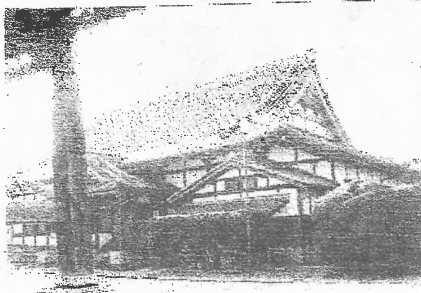
・千里山基督教会:昭和23年設立。礼拝堂隣の高くそびえる尖塔は千里山の空間を演出する一つのシンボルとなっています。

千里山駅前より第一噴水を通って新御堂筋に通じる道路はレッチワースロードと愛称が付けられています。

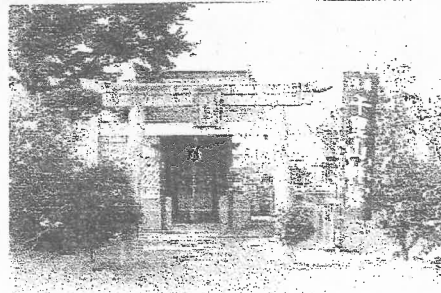
そのレッチワースロードの一つ南の筋の住民活動(千里山みどりの協定)が第2回吹田市都市景観賞を受賞しています。

通過交通量の増大や坂道など、高齢者にとって辛い一面もありますが、駅前近くに商店や開業医の多いことから安心して住めるまちでもあります。

千里山にも課題が多くあります。住み続けたいまちを目指して、昨年11月に商工会、自治会、まちづくりを考える市民グループが集まって千里山まちづくり協議会が結成されました。その活動が期待されます。



千里寺



千里山神社



千里山基督教会

「江坂の街」から「榎坂の村」へ
～まち歩きは「タイムトンネル」を抜けて～

垂水町 平田 真

すいた市民環境会議まちなみ委員会の「まちなみ散策」。初参加の9月の「佐井寺コース」に続き、10月の「旧榎坂村」コースに参加させていただきました。

江坂駅を出発、南側に緑豊かなサンクンガーデン（周囲より少し低くなった緑のある広場）がある旧ダイエー本社ビルや2階の公開空地に岡本太郎の壁画があるダスキン本社ビルなどの高層ビル群を見ながら、豊津公園を抜けて西へ。10分も経たないうちに舟板を張った旧家や細い路地の多い「蔵人」へ到着。このあたりからタイムトンネルを抜け江戸時代にでもやってきたかのような錯覚に陥るような風景が時折現れます。昔、大阪から「榎木の渡」をわたって勝尾寺へ至る参道だったという旧街道を北へ。旧吹田街道との交差点あたりで右「かちを」（勝尾寺）などと書かれた「みちしるべ」の石柱を見学。その後、昔、長柄に橋をかける際に父が人柱となり「もの言わぬ人」となった岩氏の娘とも関係がある「法泉寺」へ。私の住んでいる垂水町の雉噺に岩氏にまつわる伝説が書かれた碑がありますが、その悲話と関係があるお寺がここにあるんだと初めて知りました。

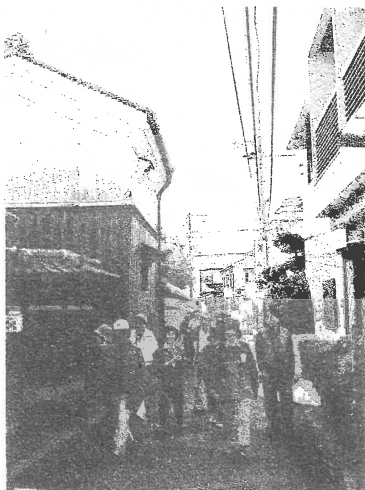
続いて旧庄屋屋敷を改修したダスキン誠心館を通り榎阪大池へ。松岡さんの「この池は狭山池とともに行基が造ったと言われている。」という説明に感心することひとしきり。今より随分大きな池だった江坂大池で友達と遊んだ小学校時代のこのあたりの風景が懐かしく蘇ってきました。

旧集落の中をくねくね歩いてやがて「高川」へ。「高川」はその名のとおり、周囲の地面より川の方が高いところにある天井川です。「高川」の下を府道がトンネルでくぐり抜ける「水道橋」へ。この橋というかトンネルというか。子どもの頃随分と不思議に感じたことを思い出しました。道路の上を川が流れる天井川。川が上流から押し流してくる土砂の堆積作用と川の氾濫を防ごうと堤防を高くする昔の人達の努力。その相乗効果で「川が天に上って行った」という訳ですから、自然と人との長い長い攻防戦の積み重ねの産物なんですよね。

また、平野部から千里丘陵にかかるこのあたりは、地球が温暖化し海面が上昇したいわゆる縄文時代（いわゆる「縄文海進」）のころには、波打ちぎわだったんだろうとか。このあたりの旧の地名は「榎坂」だから、榎木橋から歩いてくるとこの辺から坂になるから「榎坂」なのかなとか。想像をたくましくしながら歩いていると、時間がたつのも忘れていました。

若者が集う現代的な江坂の「街」のすぐ近くに長い歴史の重みを感じさせられる「村」がある。この「モザイク模様」がこの「まち」の楽しさだと感じました。昔からの積み重ねで「まち」はできます。そして、これからの積み重ねで未来の「まち」ができていきます。私達は子や孫にどんな「まち」を残そうとしているのでしょうか？そんなことを感じながら、再びタイムトンネルを抜け、最終地点である超現代的な江坂公園へ戻ってきました。

この散策のご案内を頂いた松岡様をはじめ「環境会議」の皆様方、楽しい半日をプレゼントしていただき有難うございました。



法泉寺の赤い医薬門
榎坂の旧家のまちなみ



「北千里のケヤキ通り」から「阪大の校舎」まで
雨に映えた三色彩道の紅葉

川園町 藤田徳子

雨の降り続くあいにくの天候、少人数で北千里駅を出発。ケヤキ通りを眼下に歩道橋を渡る。

桜が紅葉し、その中に実をつけたままの柿の木が同じ色で紅葉。団地が建ち並ぶ道路を通りすぎて、ピアノ池を上から見るとグランドピアノの形をしている。以前は悪臭が漂っていたそうだが、今は吹田市の各団体の協力で水はけもよくなり、鳥の姿が見えると説明があった。雑木林の中で木の名前を教えてもらう。トベラ、アラカシ、ナンキンハゼ、エノキ、サングシュの間にさざんかも咲き、傘をさしながらゆっくり気分で歩く。



「三色彩道 カラー印刷でないのが残念」

しばらくして信号を渡ったとたん、目の前に広がるなんとも言葉で表わせない感動に、みんな「ウァー」と立ちつくす。すばらしい紅葉「百聞は一見に如かず」がぴったりだと思いました。太陽に照り映える紅葉も絶景。でも、今日の雨に濡れた色のあざやかさは格別。車道の両側の内側に赤い

橙、黄色、外側に緑。その彩色にはさまれて、濡れた落ち葉を踏みながら、次の信号まで傘をさしているのも忘れるくらいきよろきよろ。標識に「三色彩道」と書かれていた。思わず納得する。「帰りにもう一度通ります」と言われて、次に歩き出す。みんな足が軽そうな感じ。

この辺りはまだまだ自然が一杯。目の前に大阪大学吹田キャンパスの校舎が点在している。広大な敷地(99万平方メートル)に大阪市中之島などから医学部・工学部などが集結していると説明してもらった。



樹木を見上げて説明を聞く

水遠池のほつりをゆっくり歩き、自然を満喫。ヤツデが白い実(花)をつけている。カンナの赤い花が咲いたり、気持ちがゆったり。池を回った時大学の校舎の上に大きな虹が出ていた。みんな「ウァーきれいな虹」。一時の雨も上がったみたい。青空ものぞいていた。

行くことのない阪大の校舎(千里門)に入り、小休止。

帰途へ出発。昔は竹林、雑木林の山の中だったと想像する。再度三色彩道の紅葉をじっくり見ながら、名残りつきない気持ちで北千里駅へ定刻に到着。すばらしい紅葉に虹のおまけもついて、本当に幸運なあろくでした。ご苦労様でした。来年もまたこの会で歩くことを期待しております。

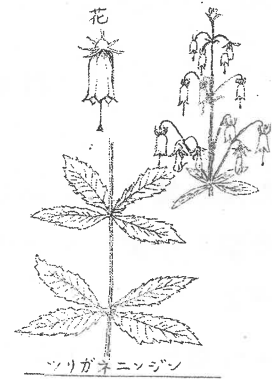
「吹田版の七草調査」にご協力を

平 軍二 (生き物委員会)

吹田市においては歳時記に示された春の七草・秋の七草ともに、自生種が少なくなっていると推定されることから、歳時記にない種を加え吹田市に見られる野草を選び、「吹田版の七草」とし、それが吹田市内でどこに分布しているかによって、吹田市の自然度を調べることが目的である。

これまで吹田版「春の七草・秋の七草調査」については、予備調査・観察会の状況を何度か会報で報告しているが、今回の本調査において会員の皆さんにもご協力頂きたく、これまでの経緯と今後の予定をまとめた。

尚、イオン環境財団の助成を受け、本格調査を実施することとなった。



1. 吹田版の七草について

1) 歳時記の七草

歳時記に記された「春の七草」は初春に萌え出る若草、七草粥に使われる食べる草であるのに対し、「秋の七草」は初秋に咲く観賞する花が選ばれている。

春の七草 (現代名)	芹 せり	薺 なずな	御形 ごぎょう	繁縷 はこべら	仏の座 ほとけのざ	菘 すずな	蘿蔔 すずしろ
	セリ	ナズナ	ハハコグサ	ハコベ	コニタビラコ	カブ	ダイコン
秋の七草 (現代名)	萩の花 はぎ	尾花 おぼな	葛花 くず	撫子の花 なでしこ	女郎花 おみなえし	藤袴 ふじばま	朝顔 あさがお
	ハギ	ススキ	クズ	カワナデコ	オミナエシ	フジバマ	キキョウ

2) 吹田版の七草

下見結果と会員から募集した70種以上の野草をリストアップし、季節感のあるもの、身近にあるもの、野草であることなどの選定条件をベースに、それに合致するもの、しかも七草では少なすぎるとして、春15種、夏7種、秋15種の合計37種の野草を「吹田版の七草」として選んだ。

春の15草	①オオイヌノフグリ、②カラスノエンドウ、●③コオニタビラコ、④シロツメクサ、⑤スマレ ●⑥セリ、⑦タンポポ、⑧ツクシ、●⑨ナズナ、⑩ノゲシ、●⑪ハコベ、●⑫ハハコグサ、 ⑬ヒメオドリコソウ、⑭ホトケノザ、⑮ヨモギ
夏の7草	①ウツボグサ、②カタバミ、③ニワゼキショウ、④ネジバナ、⑤ヒメジョオン、⑥ミヤコグサ ⑦ツククサ
秋の15草	①アキノタムラソウ、②アキノノゲシ、③アレチノヌスビトハギ、④エノコログサ、●⑤キキョウ、 ⑥キツネノマゴ、●⑦クズ、●⑧ススキ、⑨セイタカアワダチソウ、⑩ツリガネニンジン、 ⑪ヒガンバナ、⑫ヘクソカズラ、⑬ミゾソバ、⑭ヨメナ、⑮ワレモコウ

●印つきゴシックは、歳時記の七草

02年度以降予備調査を兼ねた観察会を5回実施したが、その結果、上記35種すべてが吹田市内で自生していることを確認した。但し、キキョウは1カ所で1本のみ、千里けやき通り沿い山田川の傾斜地にあったので、歩道から見えるところに観賞用に栽培されていたものが、残ったのかも知れない。

2. 七草調査方法

1) 調査区画 吹田市内を約1km平方メッシュ(東西約1,100m、南北約900m)に区切ると約50区画となる。この区割り環境省が生きものを含む調査で採用している緯度・経度で分割する3次メッシュと呼ばれるもので8桁の数字、例えば千里北公園の蓮間池は5235-1480で示される。今回の調査区画は、この下4桁1480で表示して区分する。

2) 調査マニュアル 本調査対象の35種の植物については、生きもの委員会塩田敏治理事による手書き図マニュアル(例:挿し絵ツリガネニンジン・アレチヌスビトハギ)が作られ、調査者は手持ちの図鑑と併用してもらうこととなる。調査にご協力いただける方には、調査報告用紙とともにお渡しする。

3) 調査報告 調査結果は、例えばアレチヌスビトハギの場合、調査区画の中に1カ所でも見つかったら、その区画メッシュにアレチヌスビトハギがあったものとして報告する。即ち、本調査では

イ) 生息状況の多少: 群生しているか、1本単独であるか

ロ) 生息範囲の広さ: 至るところにあるか、1ヶ所のみか

を問わないこととする(但し、生息状況・生息範囲が特徴的であれば、観察メモ欄に記載)。

4) 調査個所のポイントと調査回数 自然が多くても、樹木の多い所(林床)には草はないので、調査個所は下記のようなポイントを中心に行うのが効率的である。

- ・ 田んぼ・畑のある所
- ・ 公園では草の多い所
- ・ いつも通る道(思いのほか草の種類が多い)
- ・ 林との境や、林の中の道
- ・ 堤防・川沿いの道、池の周囲、

「春・夏・秋の七草」と季節分けしたように、野草は季節ごとに主役が変わり、同じ土地を二重三重に利用している。秋の七草の大部分は春に見られないなど、季節ごとの調査が必要になるため、同一場所の調査は季節を変えて3回以上おこなう。

3. 七草勉強会+観察会開催

調査報告用紙の記入法を統一するため、マニュアルを見ながらの七草勉強会(+観察会)を月1回程度開催する。第1回は1月12日にメダカの田んぼで実施済みであるが、2~5月の予定は下記の通りで、6月以降も継続することとしている。

回	月日	曜日	時刻	集合場所	調査場所	備考
2	2月15日	日	9:00~12:00	阪急山田駅(2F改札)	大阪市立弘済院	春の七草中心 当日参加OK
3	3月6日	土	"	現地(岸部北5丁目)	メダカの田んぼ	春の七草試食会 要予約(下記)
4	4月3日	土	"	北急桃山台駅西広場	春日	春の七草中心 当日参加OK
5	5月30日	日	"	阪急北千里駅出口	阪急鉄道予定地	春+夏 当日参加OK

…… 3月6日「春の七草試食会」の予約申込みについて ……

内容 メダカの田んぼで七草摘み

↳ 近くの公民館などで調理・試食

募集人員 20名(先着順)

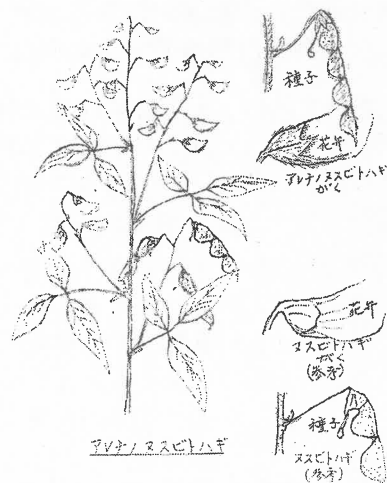
申込受付開始日 2月11日(水・祝)以降

申込先 中村小夜子 (Tel.090-8375-0647、

又はFAX06-6338-1107)

会費 500円(材料代)

(注) 3月6日は予約者のみで、当日参加は受付しない



4. 全体スケジュール

調査期間 03年11月~05年1月(内、現地調査~04年11月迄)

結果集約 マップ(一般配布用3000枚)、
報告書(イオン財団向)

七草調査員募集中

今回の七草調査にご協力いただける方は、先ず2/15(日)の七草勉強会+観察会に参加して下さい。

詳細はそのときに説明し、同時に調査用の書類をお渡し致します。また調査に協力できるが、2/15当日ご都合が悪い方は、生きもの委員会メンバー(平・塩田・熱田・小川・小田・加藤・中村)に連絡下さい。

第1回 七草勉強会+観察会結果速報 (於:メダカの田んぼ他)

日時 1月12日(月祝) 9:00~12:00

調査地域NO

1432

住所 岸部北5丁目/4丁目

植生環境

田んぼ

メダカの田んぼを巡ると、今回調査対象としている春の七草が次々見つかったが、昨春試食会を行ったときにメダカの田んぼで採取し、天ぷらとして賞味したコオニタビラコが見当たらなかった。

そこで、メダカの田んぼと同じ調査地NO(1432)にある、紫金山東側の田んぼに移って探した所、ロゼット状のコオニタビラコが多数確認できた。

両方の田んぼで確認した種の内訳は

春の七草(15種中) 14種(スミレが見つからず)

夏の七草(7種中) 1種(カタバミ)

秋の七草(15種中) 2種(セイヨウアザチク・ミゾソバ)

それ以外 29種(アカネ・ヒメウズなど)

トータル 56種(花15種、葉30種、実11種)

であった。

また、七草調査時に調査者の方に記入してもらった調査票(案)の試用テストを行い、記入しにくいなどと指摘された点については修正を加え、本調査用の調査票様式を決定した。

(04.1.15 平 軍二)



コオニタビラコとオオイヌノフグリ(03.4.10)

大阪府民環境会議が発足しました

Osaka People's Environment Network (略称: OPEN)

2003年11月24日、大阪府域において自然環境や地球環境保全、まちづくりや環境教育、消費者保護や国際協力などで活動する団体が集まった組織が発足しました。4月には特定非営利活動法人の認証がおりる予定です。そこに、すいた市民環境会議は団体として参加することになり会長が理事の一員になりました。

その目的は、大阪府域の環境社会分野で活動する市民やNGO/NPOなどがネットワークを形成することです。そして地球環境や地域の環境保全・創造活動及び環境学習活動を行うとともに、市民活動団体を支援して市民セクターの確立を促し、NGO/NPO・行政・学校・企業と協働して「循環と共生、参加を基調とした市民社会の実現」に寄与することです。

具体的な活動として以下を考えています。

- ① 地球温暖化防止や地域の環境保全活動への市民の啓発を目的とした教育・広報に関すること
- ② 地球温暖化防止や地域の環境保全に向けての情報の収集・発信、調査研究に関すること
- ③ 地域に根ざした持続可能な発展・循環型のまちづくり及び環境教育のためのネットワークづくり、情報基盤の整備に関すること
- ④ 目的達成に関連する環境保全活動団体への組織マネジメントや人材育成に関すること
- ⑤ 目的達成に関連する行政や企業への政策提言に関すること
- ⑥ これらに係る活動を行う団体の運営、活動に関する連絡・助言・援助に関することなど

今後皆様のご協力をお願いすることがあると思っておりますがよろしくお願ひいたします。

メダカの田んぼのレクイエム（鎮魂歌）

小田忠文（内本町）

ビオトープ委員会は釈迦が池の東側に
ある田んぼ跡を「メダカの田んぼ」と呼ん
で、ビオトープにしようとして4年間楽しんで
きました。

地主さんのご厚意でお借りしていた土
地ですが、地主さんの意向で老人ホームが
建設されることになり、「メダカの田んぼ」
のビオトープは3月6日で終わりを迎える
ことになりました。

釈迦が池の影響で常に湿田状態で水抜
きをすることが困難なところですが、ビオ
トープとしてこんないいところはありません
でした。



スイタクワイの田で子どもたちが
どろんこ遊びをしました。メダカを
とりに子どもたちが来ていました。
サギが来てメダカやオタマジャクシ
を食べ、カラスがザリガニを食べ、
カモがスイタクワイを食べ、蛇も来
ていました。

そこは吹田では消え去ったと思わ
れた自然が復元された場でありまし
た。本来の意味でのビオトープにな
っていたのです。

ある人がこんなメダカの田んぼが
終わることを聞いてメッセージを寄
せてくださいました。これをメダカ
の田んぼのレクイエムとします。

あのめだかの田んぼ、メダカも還ってき
た、虫も、草も還ってきた。

ぱったり売られて、どーんとコンクリ
ートで固められるより、わずかな時ではあ
ったけれど、なんぼか、土はうれしかったろ
う、と、そんな風に思います。

受験を控えた12月、くわい堀りをした
中学3年生たち。あんなにもはじけて笑っ
ている彼らを見たことも、なかった。

めだかの田んぼと、それを支えてこられ
た皆様のお陰で、何度か、スイタクワイや
野草をいただきました。お餅もね。

そうしてあの土の命、しっかり、いただ
きました。ご馳走さま。

メダカの田んぼの記録は http://www3.big.or.jp/%7Esskk/Ota_fram.htm で見られます。

メダカの田んぼでロケ 映画「ランドセルゆれて」

岸部北 古谷啓伸

映画「ランドセルゆれて」（製作：有限会社関西プロデュースセンター、中山映画株式会社 監督：中山節夫）が昨春完成し、吹田市内で繰り返し上映会が持たれた。学童保育を題材にしたもので、物語の舞台を特定していないが、ほとんどが吹田市でロケされている。私の目で分かったロケ地は神崎川右岸、豊津第二小学校、旭通り商店街とすいたまつり、中国縦貫とモノレール、そして釈迦ヶ池東隣にあるメダカの田んぼだった。

この映画が数10年後に「かつての吹田市の情勢を伝える」映像として使われるとき誤解も伝えることが心配だ。メダカの田んぼに関わる場所に触れておきたい。

学童が学校の池でヤゴを捕った。エサを図鑑でみても記述がないとき、誰かが「イトミミズを食べる」と言い、「釈迦ヶ池付近でミミズが捕れる」と言う。子供と大人がミミズを探す場面が2002年8月8日にメダカの田んぼで撮影され、フィルムは1分にも満たない時間にまとめられた。ほぼつぎのようなシナリオだった。

.....

* 釈迦ヶ池の風景。

* 子供たちと大人たちがメダカの田んぼに下りてくる。

* 慈姑と稲の茂る風景。

* 池のふちに子供たちがしゃがんで、水際に手を入れてミミズを探す。

大人：ミミズが捕れたかな。

子供：うん。

* 子供が水中から手を引き上げて、片手を広げる。イトミミズがからみあっている。
大人：おっ、たくさん捕れたね。

..... これでメダカの田んぼは終り

百科事典によれば、ミミズは普通陸棲であるが、イトミミズは水棲で泥から半身を水に出して揺れていたりする。イトミミズならば泥をスコップかじょれんで引き上げて、ミミズを摘んで、泥水を入れた容器に入れる。手で握りしめるようにミミズを貯め込むようなことは誰もしない。

映画に映った手のひらのミミズは20ミリリットルぐらいの群れで、土がついていない。買って調達したことが見え見えの撮影だ。映画監督とスタッフはミミズ捕りをしたことがないことが分かる撮り方だ。

メダカの田んぼにイトミミズは確かにいる。前号に寄稿した小松孝子さんが、水田の稲株を掘り起こしたときや畑を掘ったときに見つけている。ここは地下水のために土が乾燥することがなく、イトミミズが畑地にも棲息する。縫い糸のように細く、長さも20mmにも満たないイトミミズを摘み出すのは大人でもむづかしい。多量の土とともに容器に入れるしかない。

最後に感想を一言。メダカの田んぼでミミズを捕るときザリガニを見つけて喜んだり、ミミズ捕りに熱中しているうちに着衣のまま池に入ってしまったたり、そういう子供らしい情景も挿入してほしかった。

セルゆれて」

ヤゴ撮影に協力

山田西 高畠耕一郎

私は、この映画に登場するヤゴや羽化のことでかなり協力しました。最初のヤゴ捕りから相談を受け、ヤゴを捕る網から水槽まで貸しました。また、撮影のためヤゴを育てなくてはいけないため、ヤゴのエサやその購入先、また、ヤゴのエサやり方法、捕まえたヤゴの種類とその育て方などを詳



映画のホームページからメダカの田んぼの場面
<http://ransel.com/photos.htm>

しく説明し、ヤゴ捕りには、暑い中、3箇所ほど吹田市内を回り、一緒に捕まえました。

さらに、映画スタッフが宿泊しているホテルに行き、監督にお会いし、ヤゴの羽化のことや時間帯などを説明し、撮影のことなども議論しました。台本の書き直しも手伝いました。

ヤゴがとんぼになって飛び去るまで数カットが映りました。ヤゴの成長の過程が子供、父兄、先生たちの成長に重ねて、象徴的に扱われています。今日の映画を観て、ヤゴの重要性と羽化の場面が必要なことがよくわかりました。助監督が何回も学校に来たり、亥の子谷のロッセリアで数回打ち合わせもしました。協力できてよかったと思っています。

あろく吹田の散策シリーズ

旧吹田村コース

3月6日(土) 9:30~正午頃 小雨決行

JR吹田駅前さんくす広場に集合 解散も同駅

古い歴史の面影を残す西尾邸、吹田の渡、高浜神社などを訪ねます。

南千里コース

4月3日(土) 9:30~正午頃 小雨決行

阪急南千里出口に集合 解散も同駅

緑ゆたかな千里南公園、千里緑地を散策します。

片山・豊津コース

5月22日(土) 9:30~正午頃 小雨決行

阪急豊津駅出口に集合 解散はアサヒビール工場

大阪ハリストス正教会、アサヒビール吹田工場などを訪問します。

参加費 会員400円、非会員500円 参加申込先 松岡 TEL & FAX 06-6384-8168

ジャスコ南千里店との協同企画で

滋賀県立琵琶湖博物館バスツアー

参加者募集

【目的】 「湖と人間とのよりよい共存関係」というテーマをかかげた全国的に有名な自然博物館です。地域の人々が湖や自然と共に暮らしてゆくヒントが織りこまれています。同館を見学することにより、自然に対する認識を深め、また、すいた市民環境会議とイオン（ジャスコの母体）との協力関係を築きます。

【実施日】 3月27日（土）9:00～16:30

【行き先】 滋賀県立琵琶湖博物館（帰路の一部で琵琶湖乗船）

【集合】 吹田市役所 正門前 9時

【参加費】 2800円（中学生以上）

1800円（小学生と幼児で座席と昼食を必要な人）

幼児で座席と昼食を必要としない人無料

交通費、昼食、保険代、講師代を含みます。

【募集期間】 2月11日（水）～2月20日（金）

【申込先】 佐藤和子まで ☎・FAX 06-6387-2096

【人数】 本会募集先着25名（イオンが別に25名募集）

2月11日にピアノ池ヒメガマ刈り実行委員会設立総会

副会長・高畠耕一郎

ピアノ池ヒメガマ刈り実行委員会（仮称）の設立総会が2月11日（祝、水）に北千里公民館大集会室で行われます。時間は14:00～15:00（受付開始13:30）です。継続的にピアノ池の美しい自然と景観を保全するには、地域住民や環境のことを考える人々が取り組む組織が必要となり、すいた市民環境会議も有志の形で参加します。賛同者はお集まりください。記念講演（仮）「都市の水辺空間と市民参加」もあります。

同会はピアノ池におけるヒメガマ刈りについて専門家のアドバイスを受けながら、多くの人々と話し合い、取り組みます。またピアノ池の自然に親しみ、その美しさを次の世代に引き継ぎます。事務局は吹田市建設緑化部緑化公園室です。

ピアノ池は阪急北千里駅東側の藤白公園内にあり、その形がグランドピアノに似ているのでピアノ池と呼ばれています。そこは駅からの帰りや散歩の途中にふと眺めると落ち着いた雰囲気を持ち、ヒメガマや水鳥が見られるなど自然に恵まれた身近な水辺環境です。しかし、ヒメガマは群生すると勢いが強く、放置するとヒメガマが池全体を覆ってしまい、最後には水面が見えなくなるほどです。また、ガマの穂は粘着性があり、それが一面に飛散して洗濯物やふとんに付着して住民に不快感を与えます。

そこで昨年と一昨年の夏に、有志がヒメガマ刈りを行いました。その結果、ヒメガマの勢いを抑え、穂の数が少なくなるなど一定の成果がありました。



その③ 小池 淳一さん

* * * * *

《すいた市民環境会議に入会したのはいつでしたか。》

おとし（2001年）だと思います。知り合いに誘われて「あろック吹田」のまちなみ散策に参加したのがきっかけです。

《ということは、すいた市民環境会議の活動の中では「歴史的・文化的環境」の部分に関心があるわけですね。》

そうですね。というか、他の委員会の活動についてはあまりよく知らないのです。

まちなみ散策には、入会して以来欠かさず参加しています。現在は、まちなみ委員もしています。

《もともと散策とか、されていたのですか。》

定年退職する前、現役の頃は時間の都合がつけば旅行に行ったりする事もありましたし、その時はやはりその土地の歴史や文化に興味を持ちました。でも、誰でもそうだと思いますが現役時代は忙しくてなかなか心身ともの余裕がないですね。昭和39年（1964年）から現在の住まいに住んでいますし、会社も吹田にあったんですが、通勤も自動車でしたし、自分の周囲の環境とか文化とかに目を向けることは余りなかったですね。

《2年目だとコースもひと通り終了して2巡目に入り、同じところを散策するようになると思いますが、別な所を歩きたいという思いはありませんか。》

そういう風に思われる方もおられると思い

ますが、僕は2回目でも3回目でも、季節が違ったり、前に聞き漏らしたり知らなかったりした情報や知識や説明が聞けたり、前回には無かったものを見つけたりで、毎回何か新しい発見があって、楽しんでいます。

《今までの散策のコースの中で特に印象に残っているところなどはありますか。》

全部楽しかったので特にと言われても…。そういえば、11月29日に行った北千里コースの三色彩道は丁度、時期もよかったし少し雨が降っていましたが、それも却って趣があつてとてもきれいで良かったですねえ。

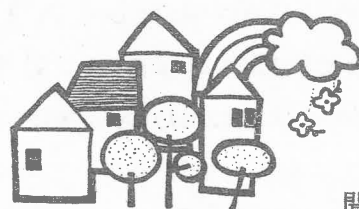
《まちなみ散策は先ほどのお話のように楽しいし、参加しやすい活動の一つだと思いますが活動の中で何か気付いたことはありますか。》

毎回、2～3名の新参加者がおられて、その方達がたいてい入会の手続きをされるようなので、まちなみ散策は環境会議についてたくさんの人に知ってもらい、会の活性化につながるための入門編的な意味もあるかなという気がします。

《最後に、すいた市民環境会議についてどういう風に感じていますか。》

えーっと。金なしで活動しているので、色々不自由な事もあるとは思いますが、僕は今のやり方で良いのではと思っています。

僕自身も、まだまだ勉強中ですが、何かお役に立てる事があれば...と考えています。



2003年12月



聞き手 天野 正子

2003年度 新入会員

2004年1月26日現在の会員数

正会員154名(個人151名、団体0名、法人3名) 購読会員(105名) 賛助会員(0名)

2003年10月20日～2004年1月26日の新入会員はつぎの方々です。(敬称略)

正会員 高島泉、田中隆三、寺西由美子、山口克也(購読会員から正会員に変更)

購読会員 藤田徳子、後藤紘海、北千里高校科学部

入会ありがとうございました

★ 封筒の宛先ラベルの下段に入金済みの年度を記入していますのでご確認ください。

★ 会費未納の方に郵便局の振込用紙を同封しました。入金をお願いします。

会員の種類、会費金額、郵便振込先は表紙の題字下に掲載しています。

郵便振込みの場合は、入金確認が若干遅れる場合があります。

正会員は総会で議決権があり、購読会員は総会で議決権がありません。他は同じです。

★ 会費についてのお問い合わせ、会員の種類変更などは

平軍二 TEL & FAX 06-6877-0648まで

ご寄付をいただいた方々 2003年10月20日～2004年1月20日(敬称略)

なし

最近の主な活動報告

- 2003年10月25日 あルック吹田散策 旧榎坂コース 参加者15名 …… 4頁
- 11月 1日 ビオトープ委員会がメダカの田んぼで脱穀 参加者8名
- 11月 8日～9日 万国自然文化園での大阪府環境フェスティバルにブース出展
- 11月23日 ヒメボタル棲息地の清掃 参加者約40名(他団体を含む)
- 11月24日 大阪府民環境会議設立総会に出席 参加者5名(本会から) … 8頁
- 11月29日 あルック吹田散策 北千里コース 参加者11名 …… 5頁
- 12月10日 「家庭の環境マネジメント(環境家計簿)」グループ監査 参加者6名
- 2004年 1月12日 メダカの田んぼで七草観察会・勉強会 参加者11名 …… 8頁

大阪自然史フェスティバルへ案内

日時：3月20日(土)～21日(日) 9:30～16:30

場所：大阪市立自然史博物館(長居公園内、地下鉄長居駅から東へ徒歩10分)

自然派市民が集合して、大規模なフェスティバルが開催されます。吹田市から本会の他に吹田自然観察会、吹田ヒメボタルの会、千里竹の会が出展する予定です。

屋内展示、屋外展示、口頭による活動発表、講演会、作業による参加体験があります。入場は無料です。みなさんのお越しをお待ちします。

昨年は3日間開催で85団体が参加し、見学者数は主催者発表で2万人でした。

詳しくは、ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/npo/> をご覧下さい。

本号は2月13日までに配達を完了する予定です。遅配された場合は古谷(☎06-6387-2139)まで連絡をいただくようお願いいたします。前号31号は11月8日頃に配達しましたが、届いてない方も連絡をお願いします。